
金融システムの機能と構造について概説しなさい。

経済社会での取引の形には取引が実行される時期により現物取引、先物取引、貸付取引の3つに分けられる。

現物取引は契約と実行が同時に行われる取引である。先物取引は実行が契約より遅れて行われる取引であるが実行に関しては給付と反給付が同時に行われる。貸付取引は給付と反給付の実行に時間的な間隔がある取引である。金融取引とはこのような貸付取引の1つである。

したがって、金融とは資金の貸借取引とすることができる。資金とは特定の目的（例えば建設など）を持った購買力の流れを意味し、現代においては貨幣がこれを担っている。

資金の貸借とは現在の貨幣と将来の貨幣が交換されることになる。

資金の借手は貸手から貨幣を受け取る一方貸手に将来に支払いの約束をする金融負債を負う。また、貸手は将来その貨幣を受け取る権利である金融資産を持つことになる。

貨幣は流動性100%の金融資産であるが、貨幣以外の金融資産は潜在的購買力の担い手である。このような金融資産は一度貨幣に換金しないと交換手段として使えない。

しかし、実物資産に比べると貨幣に近い性質を持っている。

金融システムには、2つの面があり1つには金融資産の貸借取引であり、もう1つは既存の金融資産の売買である。金融市場においては金融資産の流動化の働きがある。

新たな資金貸借の取引が行われる場を発行市場と言い、過去の資金貸借関係の流動化が行われる場を流動市場という。

金融的活動において流通市場が発達していると資産の流動化が容易に行われ、貨幣性が増大する。もし金融市場が存在しなかった場合には、現時点でより多く消費して、将来により少なく消費しより高い水準の効用を得ることは実現できない。

金融市場が存在した場合には、経済主体は現在において資金を借入れ、将来に返済し予算の制約を緩和することができ、より高い効用水準を実現できる。

金融取引の機能は第一に経済主体間の取引を円滑にし、取引の可能性を増大させる。第2に資金利用の効率性を高めることにより経済組織をより効率的ににし、資源の効率的配分を促進する。

金融組織は金融コストを低下させ、市場での資金供給量を拡大させる働きをする。

金融システムにおいて資金の取引が行われる場を金融市場といい、資金の取引を媒介する主体を金融機関という。

金融市場において資金の貸手と借手が直接会って資金の貸借を行うことは、互いに相手方の経済状況を調査、評価するには費用が発生する。これは取引の発展を制約し、生産能力を発揮することができない。

資金取引の仲介役を担う金融仲介機関は、金融業務を専門的に行い、多量の業務を行う

ことにより取引費用を低くすることができ、扱う資産の多様化により全体として危険（リスク）の度合いを低くすることができ、安全性の高い金融資産を増加させる機能がある。

金融市場での取引は直接金融と間接金融に分けられる。

直接金融は、企業が発行する株式や事業債を個人が購入することである。

間接金融は金融仲介機関が最終的借手の発行する金融債務を購入し、自ら金融債務（間接証券）を発行することにより、最終的貸手から資金を集める資金取引の方式である。

このような間接証券は銀行預金、保険証券、信託証券、投資信託受益証券などである。

間接証券には、次のような資産保有者に便利な特性がある。①利子払い、返済に関して確実性が高く直接証券より安全な資産②少額の資金により購入可能という点で分割可能性が高い③比較的容易に貨幣に交換できる④さらに、大量の資金を金融市場へ集めることができる。

金融システムの構造

金融取引の形態により市場取引と相対取引がある。

市場取引は、金融市場で金融資産の取引が不特定多数の間で自由に行われるものである。代表的なものに株式市場と公社債流通市場がある。

相対取引は、当事者が互いに合意して数量、価格、決済を決めて行うものである。

これは、銀行と企業とのあいだで行われる貸出取引の一種である。

利点は銀行と企業の長年の取引関係を維持することにより企業の経営内容を知ることができる点にある。また資金を低いコストで提供できる。 (A)